

輪島塗の歴史と文化

能登の風土は、輪島塗の製作に必要な材料をもたらす気候も適していました。また生産や販売の独自性は先人たちが工夫を重ね生み出してきたものです。輪島塗の永いあゆみは、作り手のたゆまぬ努力とともにあったといえるでしょう。

本展では、輪島塗を支える技術と道具、作品の数々を通じて、輪島塗の歩んできた道のご紹介いたします。産地として発展した江戸時代から様々な生活漆器が作られた近代、作家たちが飛翔する現在へとつながっていく歴史と文化をご覧ください。

作品名	作者名	製(制)作年代	備考
1 朱漆塗八隅膳・椀		1669年(寛文9)	宮崎高志氏寄贈
2 俳句小屏風	永井由太郎	20世紀前半(大正時代)	永井賢栄寄贈
3 漆器意匠(デザイン)見本	稲村鳳鳴堂	20世紀前半(大正時代)	
4 朱漆塗椀		18世紀(江戸時代)	堂平信也氏寄贈
5 黒漆塗歯黒鉢		19世紀(明治時代以降)	堂平信也氏寄贈
6 黒漆塗御坊様膳・椀	小式海清九郎	1907年(明治40)	松本昌平氏寄贈
7 抱茗荷紋沈金枕		19世紀後半~20世紀前半(明治~大正)	松本昌平氏寄贈
8 朱漆塗麩皿		1914年(大正3)	能納屋区寄贈
9 黒漆塗脇息		20世紀前半(大正~昭和前期)	松本昌平氏寄贈
10 乾漆器と銘々盆	塩多慶四郎	1978年(昭和53)第25回日本伝統工芸展	塩多慶四郎氏寄贈
11 髹飾線文盛器	鈴木秀夫	1987年(昭和62)第4回日本伝統漆芸展	
12 丸に木瓜紋沈金錫入物		1881年(明治14)	宮崎高志氏寄贈
13 青漆塗桔梗沈金角平		19世紀(江戸後期~明治中期)	宮崎高志氏寄贈
14 菊沈金三つ組杯・杯台		19世紀後半~20世紀前半(明治~大正)	宮崎高志氏寄贈
15 黄漆塗草花沈黒提重		20世紀前半(明治後期~昭和初期)	宮崎高志氏寄贈
16 黒漆塗家紋秋草沈金足付鉢		20世紀(大正~昭和)	宮崎高志氏寄贈
17 山水沈金色紙筥	伊藤起鳳	1977年(昭和52)頃	牛村繁男氏寄贈
18 鶏頭沈金額	松井義明	1973年(昭和48)頃	余門正三寄贈
19 乾漆沈金合子「秋さぶ」	道上正司	1980年(昭和55)第27回日本伝統工芸展	
20 沈金ひな鳥文平棗	前大峰	1976年(昭和51)	(株)大向高洲堂寄贈
21 沈金漆箱「黎明」	板谷光治	1995年(平成7)第42回日本伝統工芸展	熊野貞久氏寄贈
22 高砂蒔絵九つ組杯・杯台		1854年(嘉永7)	宮崎高志氏寄贈
23 鶉文蒔絵膳	角野商店 角野亀次郎	20世紀前半(明治後期~大正)	角野島江氏寄贈
24 山鳥蒔絵額	長井秀嶺・塩多慶四郎	1957~1958年(昭和32~33)頃	塩多しげ子氏寄贈
25 秋草蒔絵手筥	坂本正春	1965~1974年(昭和40年代)	松本昌平氏寄贈
26 珍味入「草花」	越戸光雄	1992年(平成4)	輪島漆器商工業協同組合協力会
27 蒔絵茶箱「稲穂」	田崎昭一郎	2000年(平成12)第47回日本伝統工芸展	
28 網代重箱	小森邦衛	1990年(平成2)	
29 沈金象嵌「ほづきの詩」櫃	角野岩次	1985年(昭和60)第7回日本新工芸展	角野岩次氏寄贈
30 沈金象嵌螺鈿箱「深山路」	山岸一男	1988年(昭和63)第35回日本伝統工芸展	
31 萩文蒔絵短冊箱	寺西松太	1987年(昭和62)第4回日本伝統漆芸展	
32 「風景」	市中佑佳	1994年(平成6)第26回日展	市中佑佳氏寄贈
33 「空と雲」	三谷吾一	1995年(平成7)第27回日展	三谷吾一氏寄贈

次回の展覧会

2017年11月11日(土)~2018年1月14日(日)

国際漆展・石川2017 輪島展



石川県輪島漆芸美術館

〒928-0063 石川県輪島市水守町四十苅 11 番地
Tel. 0768-22-9788 Fax. 0768-22-9789
<http://www.city.wajima.ishikawa.jp/art/>